

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン 2012年度 夏期募金による活動報告書

World Vision

この子を救う。未来を救う。

募金件数:9,051件

募金金額:62,500,732円

募金期間:2011年10月1日～2012年9月30日

皆さまにご協力いただきました夏期募金により、アフリカやアジアで、食糧や水の不足により栄養不良や感染症に苦しむ子どもたちや人々への支援を行うことができました。感謝とともに、ご報告させていただきます。

西アフリカ食糧危機

支援地域の状況

西アフリカのサヘル地帯の国々(ニジェール、マリ、ブルキナファソ、チャド、セネガル、モーリタニア)では、2012年1月頃から、約1,870万人が食糧不足に苦しんでおり、100万人以上の子どもが重度の急性栄養不良に陥る危険にさらされていました。この食糧危機は、度重なる干ばつ、慢性的な貧困、そして昨年比140% - 150%といわれる食糧価格の高騰が原因であると言われています。

また、マリでは、軍のクーデターや反政府勢力との抗争による治安の悪化に伴い、39万人以上が、住む場所を離れて国内外に避難し、マリ国内や周辺国のモーリタニア、ニジェールなどの食糧危機はさらに深刻なものとなりました。

食糧危機は、人々の生活に深刻な影響をもたらします。栄養不良になると子どもたちは抵抗力が弱まり、病気にかかりやすくなってしまいます。また人々は食糧を求めて各地に移動するため、ニジェールだけでも約3万3千人の子どもたちが学校に通うことができなくなりました。

ワールド・ビジョンの活動

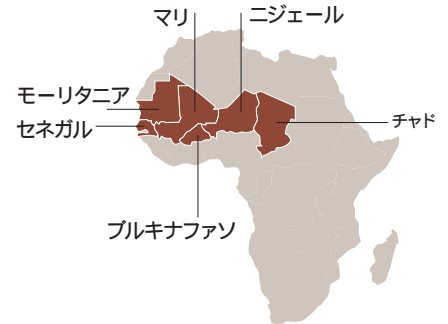
ワールド・ビジョン・ジャパン(以下、WVJ)は、国連世界食糧計画や他国のワールド・ビジョン(以下、WV)と協力して、とくに支援が必要な国々(ニジェール、マリ、チャド、モーリタニア、セネガル)で様々な支援を実施しました。

食糧配布

母子世帯や妊産婦、高齢者、障がい者、マリの難民、国内避難民など、最も脆弱な立場にいる人々を対象として食糧配布を行いました。例えば、マリのセゴウ地域、シカツ地域では、国内避難民や国内避難民を保護している世帯を含めた、とくに深刻な食糧不足に陥っている人々に食糧配布を行いました。多くの人々が現在も支援を必要としているため、今後も継続して支援活動を行います。

フード・フォー・ワーク

人々が灌がい施設などのインフラ(産業や生活の基盤となる施設)を整備し、その労働の対価として食糧を受け取るフード・フォー・ワーク(Food For Work)プログラムを実施しました。フード・フォー・ワークにより、日々の食糧の必要を満たすだけでなく、人々によるインフラの改善によって長期的に食糧不足に対応する力をつけることを目指しています。支援は現在も継続中であり、徐々にインフラ整備が進んでいます。



WVから食糧を受け取る人々(マリ)

栄養改善支援

栄養不良に陥っている乳幼児や妊婦、授乳中のお母さんを対象に、栄養改善支援を実施しました。とくに、子どもの状況が深刻な場合は、地域の病院で集中治療を行いました。また、中度の栄養不良に陥っている乳幼児を対象に2週間に一度、十分な栄養素を含む栄養治療食品を配布し、2カ月に一度、身長と体重を測定して乳幼児の栄養状態を確認しました。

さらに、栄養不良の妊産婦や授乳中のお母さんに対しても、栄養のバランスのとれた食糧を月に一度配布しました。現在も支援は継続中であり、例えばマリのセゴウ地域、シカツ地域では、栄養不良に陥っている約1万5千人の乳幼児と約5千人の妊産婦、授乳中のお母さんの栄養状態が改善するように支援しています。

